

MSM を対象とした、HIV/STIs 即日検査相談の実施及び innovative な検査手法の開発

研究分担者 井戸田一朗（しらかば診療所）
研究協力者 星野慎二（特定非営利活動法人 SHIP）
立川夏夫（横浜市立市民病院 感染症内科）
相楽裕子（東京都保健医療公社豊島病院感染症内科）
吉村幸浩（横浜市立市民病院 感染症内科）
沢田貴志（港町診療所）

研究要旨

MSM (men who have sex with men)を限定とした HIV/STIs 即日検査相談を実施することにより、検査相談を受検した MSM の特徴と背景及び、HIV 感染率の推移を把握し、受検者の特徴と背景、HIV 感染率を明らかにすることで、神奈川県地域の MSM に対する HIV/STIs 予防対策の策定に有用な情報を得る事を目的とする。

(1) MSM 限定の HIV/STIs 検査の実施

神奈川県は JR と小田急線の 2 つの主要な交通網により 2 つのエリアに分けられるため、横浜駅と小田急線相模大野駅の 2 つの会場で、2016 年 5 月から 2016 年 12 月まで計 9 回の即日検査を実施し、述べ 100 名の検査相談を実施した。陽性者数は、HIV 抗体（確認検査で確認）1 名(1.0%)、梅毒 TP 抗体 8 名(8.0%)、HBs 抗原 0 名であった。受検者の背景は、MSM が 99 %、神奈川県内居住者が 69%を占め、最多年齢層は 30-34 歳(22.0%)であった。SHIP の検査相談を過去に受検したことがある受検者は 33.0%であった。

また、当検査では検査日の 1 週間前からインターネットによる予約受付を行っているが、10 月以降は予約開始から 2~3 日で定員に達していることから、MSM に親しまれ長期に利用されるサービス枠組みを有すると示唆された。

今後、さらなる受検者を増やすために、定員の増加または検査回数の増加を行う必要があるが、会場が公共の会議室を利用しているため継続した会場の確保とスタッフの増加が今後の課題である。

(2) 保健所と連携した検査の拡充

相模原市保健所と連携し、小田急線相模大野駅前の公共施設において臨時検査を 2 回実施し、その広報を一括して MSM 向け出会い系アプリに掲載することで 29 名を検査につなぐことができた。

A.研究目的

(1) MSM 限定の HIV/STIs 検査の実施

厚生労働省エイズ発生動向における感染経路別割合では男性同性間の性的接触が約 7 割を占めているが、こうしたことが起こる背景としては、MSM の多くは自分が同性愛者であることを学校や

職場の仲間、家族にも伝えることができず、自分自身のことを隠し偽り、“異性愛者”を装って生活している。そのことがストレスとなり、成人後のメンタルヘルスに大きく影響し、HIV 感染リスクの高い性交渉との関連が先行研究で指摘されている。

また、MSMの中には過去にHIV検査を受けたことがありながら感染してしまう人が少なくない。このように検査のリピーターが感染してしまう背景として、情報や知識だけでは行動変容に結びつかないことが考えられる。行動変容を起こしてもらうためには検査のときのカウンセリングを通じて自己の行動を振り返る作業が重要と考えられる。

本研究では、横浜市内でMSM向けコミュニティセンターの運営で実績のある特定非営利活動法人SHIPの協力を得て、MSM向けの自発的HIV/STIs即日検査相談(HIV抗体、梅毒TP抗体、HBs抗原)を実施し、その受検者の特徴と背景を明らかにし、HIV感染率の推移を把握する。また、従来の横浜会場の他に小田急線沿線に会場を増やすことで受検者の拡大に繋がる可能性を検討することを目的とする。

(2) 保健所と連携した検査の拡充

前述のMSM限定のHIV/STIs検査は公共施設を利用しているため、定員の増加には限界がある。そのため、保健所と連携し、MSM向けの広報をNPOがサポートすることでMSMの検査受験者の増加につなげていくことを目的とする。

B.研究方法

(1) MSM限定のHIV/STIs検査の実施

複数の路線が乗り入れる主要ターミナルの横浜駅から徒歩5分の公共施設「かながわ県民センター」の会議室を利用し、5月から定員15名で即日検査を実施した。また、小田急線の相模大野駅前の商業施設の中にある公共施設「ユニコムプラザさがみはら」において、11月に定員15名で即日検査を実施した。

検査日の1週間前からインターネットによる予約制とし、受検者同士が顔を合わせる機会を最小限にする配慮をした。検査前に下記の項目を含むアンケートを実施した。属性、肝炎ワクチン接種有無、HIV検査受検歴の有無、心配な性的接触の内容等。インフォームド・コンセントを得た後、

看護師等による検査前の相談と採血を実施。

その後、臨床検査技師等による検査を施行後、医師による結果告知と検査後相談を実施した。

HIV抗体検査にはダイナスクリーン®HIV-1・2を、梅毒検査にはダイナスクリーン®TP抗体を、B型肝炎検査にはダイナスクリーン®HBsAgを用いた。

ダイナスクリーン®HIV-1・2が陽性だった場合は、Western Blot法による確認検査を神奈川県衛生研究所にて追加して実施し、検査相談実施1週後に確認検査結果を医師がSHIPの事務所で受検者に告知した。

(2) 保健所と連携した検査の拡充

相模原市保健所と連携し、11月21日に研究班で、12月4日は相模原保健所が、小田急線相模大野駅前の公共施設において臨時検査を実施した。その検査の広報として、MSM向け出会い系アプリに11月14日からバナーを掲載して検査の広報を行った。

(倫理面への配慮)

MSM限定のHIV/STIs検査については、2012年に慶應義塾大学医学部の倫理審査委員会で審査承認されている。

また、対象者には事前に本分担研究の目的と研究報告書等に記載することを説明してから実施した。また、本検査相談は無料匿名であり、さらに回答者自身のプライバシーへの配慮のため、アンケートの集計にあたっては、数値化することにより、個人を特定できないよう配慮している。

C.研究結果

(1) MSM限定のHIV/STIs検査の実施

横浜と相模大野の2つの会場で2016年5月から12月までに計9回実施し、述べ100人が受検した。会場別の実施状況は、横浜会場では8回の検査で述べ予約人数は108名で、実際の受検者数は88名であった。また、相模大野会場では1回の検査で述べ予約人数は15名で、実際の受検者数は12名であった。(図1)

① 月別検査予約数と受験者数の推移

横浜会場では、5月から12月までの期間、毎月1回、定員15名で実施してきたが、10月以降の予約数は定員に達している。予約はインターネットで1週間前から開始しているが、11月・12月は予約開始から2日で予約が一杯になっている。予約システムは定員に達した時点で、受付を停止するため、予約できなかった人数はカウントすることができないが、検査を希望しなら予約できなかった人はいると思われる。

② 受験者背景

期間内に2つの会場で受検した100名のうち、過去にHIV検査を受けたことがある人は87名(87%)で、初めてHIV検査を受けた人は13名(13%)であった。(図3)

過去にHIV検査を受けたことがある87名に前回の受検した施設を尋ねたところ33名(33%)が当検査で検査を受けた人で、保健所で受けた人が31名(31%)、南新宿の利用者が13名(13%)であった。(図4)

年齢別の最多は30-34歳代22名(22%)であり、15-19歳代の受検者は1名であった。(図5)

居住地構成では、横浜・川崎市が49名(49%)と最多で、神奈川県域(横浜・川崎以外)が20名(20%)、東京22名(22%)、その他8名(8%)であった。

(図6)

検査会場別の居住地構成では、横浜会場では横浜・川崎が54名(54%)に対し、相模大野会場では、東京42名(42%)、神奈川県域・相模原市が41名(41%)であった。(図1)

セクシュアリティは、MSMが99名(99%)であった。受検動機は、性的接触による心配が55名(55%)、念のためが34名(34%)、症状が出たが7名(7%)であった。(図7)

③ 気になる性的接触について

気になる性的接触についてアンケート調査を行ったところ、初めての相手が59名(59%)、いつもの相手が24名(24%)、風俗が6名(6%)であった。また、そのときのコンドームの使用状況

では、アナルセックス(ウケ)のときにコンドームを使わなかった15名(15%)、アナルセックス(タチ)のときにコンドームを使わなかった20名(20%)であった。(図8)

④ 当検査場を選んだ理由(有効回答96名)

当検査場を選んだ理由の調査(複数回答)では、「直ぐに結果が分かるから」83名(86.5%)、「梅毒・B型肝炎も受けられるから」73名(76.0%)、「ゲイ専用なので」40名(41.7%)であった。

(図9)

⑤ 満足度調査(有効回答96名)

事後アンケートにおいて、「役に立つ知識が得られた」と答えた人は87名(90.6%)で、「知人・友人にこの検査をすすめたいと思いますか」の質問で、「すすめる」46名(47.6%)、「話してみたい」31名(32.3%)であった。(図10)

⑥ HIV/STIs検査結果

陽性者数は、ダイナスクリーン[®]によるHIV抗体(後に確認検査で陽性と確認)1名(1.0%)、梅毒TP抗体8名(8.0%)、HBs抗原0名であった。

(図2)

確認検査で陽性だった1名には医療機関を紹介し、医療機関からの受診報告書により1週間以内に受診していることが分かっている。

(2) 保健所と連携した検査の拡充

11月21日と12月5日の2回の検査を同時に広報することにより、11月21日は定員15名に対し15名の予約があり、12名が受検した。また、12月5日の相模原市保健所の検査は定員25名に対し25名の予約があり、17名が受検した。(図11)

D. 考察

(1) MSM限定のHIV/STIs検査の実施

SHIPが提供する検査相談を過去に2回以上受けたことある人が全体の約3割を占めていた。また、事後アンケートにおいて、90.6%の受験者が役に立つ情報が得られたと答え、80.2%がSHIPの検査を知人にすすめたいと答えていることから、利用

者の満足度は高く、MSMに親しまれ長期に利用されるサービス枠組みである可能性が示唆された。

その一方で、予約開始から2～3日で定員に達していることから、更なるニーズに応えるには定員の増加、または検査回数の増加が必要とされる。しかし、SHIPは専用の検査施設を持っていない。検査相談に用いる多岐に渡る物品と資材は、通常はSHIPの事務所で保管され、検査の度に、少ない人的資源で、検査会場に運搬・移動・設置している現状では、検査回数を増やすことは難しい。そのため、上記を解決できる恒久的な検査施設を探すことが今後の課題とされる。また、パートナーや友人同士で受検する人が毎回1組～2組いることから、いかにプライバシーを確保するかが今後の課題である。

(2) 保健所と連携した検査の拡充

検査の実施主体は別々であってもMSM向けの広報を一括して行うことにより、1月のバナー広告で効率的な広報が行える。また、保健所の検査でも、NPOと連携することによりMSMを対象を絞った検査ができることがわかった。

E.結論

なし

F.健康危険情報

なし

G.研究発表

なし

H.知的所有権の出願・登録状況（予定を含む）

なし

図1 検査会場の位置関係と受験者居住地構成



◆ MSM限定の即日検査を毎月1回実施

月曜 17:40～20:00

即日検査(HIV・梅毒・B型肝炎)

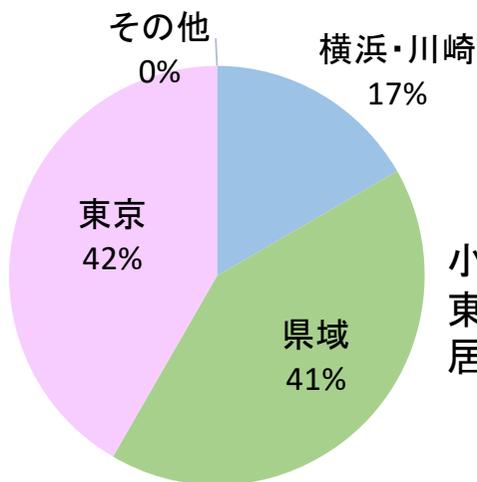
WEBによる予約(定員 15名/回)

横浜と相模大野の2会場において検査を実施

会場	実施回数	予約数	受験者数
横浜	8回	108名	87名
相模大野	1回	15名	12名

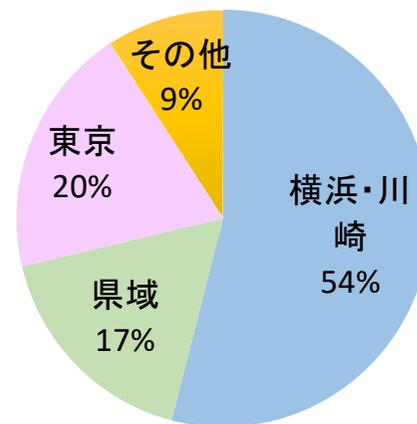
◆ 居住地構成

相模大野会場



小田急線沿線ため
東京や神奈川県
居住者が63%

横浜会場



東海道線・湘南新宿ライン・横須賀線・東横線が
乗り入れる主要ターミナルのため東京・埼玉・千葉からの受験者が29%

■ 横浜・川崎 ■ 県域 ■ 東京 ■ その他

■ 横浜・川崎 ■ 県域 ■ 東京 ■ その他

図 2 検査実施日別受験者数と検査結果

	定員 (人)	予約数 (人)	受験者数 (人)	HIV (+)	TPHA (+)	HBsAg (+)
【横浜会場】						
5月	15	10	8		1	
6月	15	14	13		1	
7月	15	13	12		1	
8月	15	12	7		2	
9月	15	14	12		1	
10月	15	15	12		1	
11月	15	15	13	1	1	
12月	15	15	11			
小計(人)	120	108	88	1	8	0
【相模大野会場】						
11月	15	15	12			
合計	135	123	100	1	8	0
陽性率(%)				(1%)	(8%)	(0%)

図3 HIV受検歴

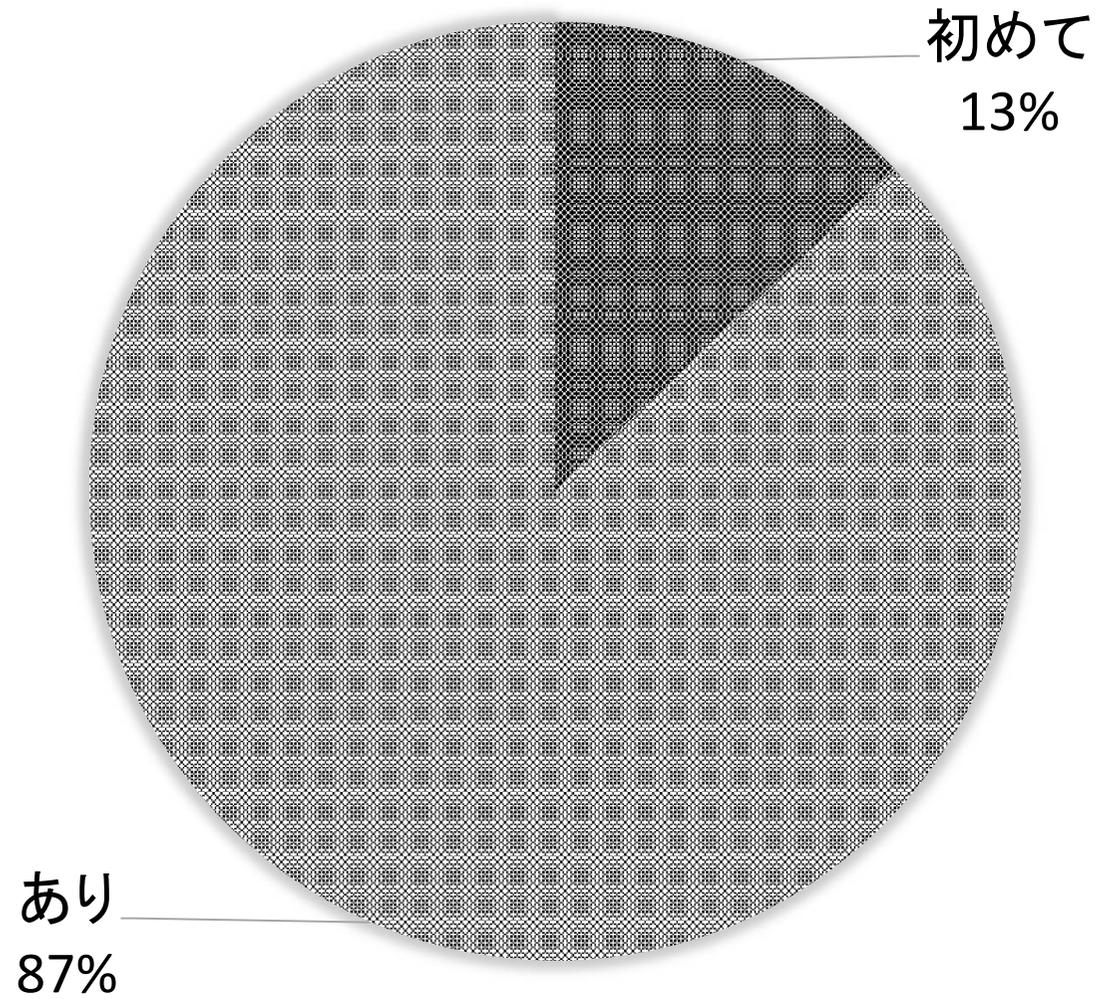


図4 前回の受検施設

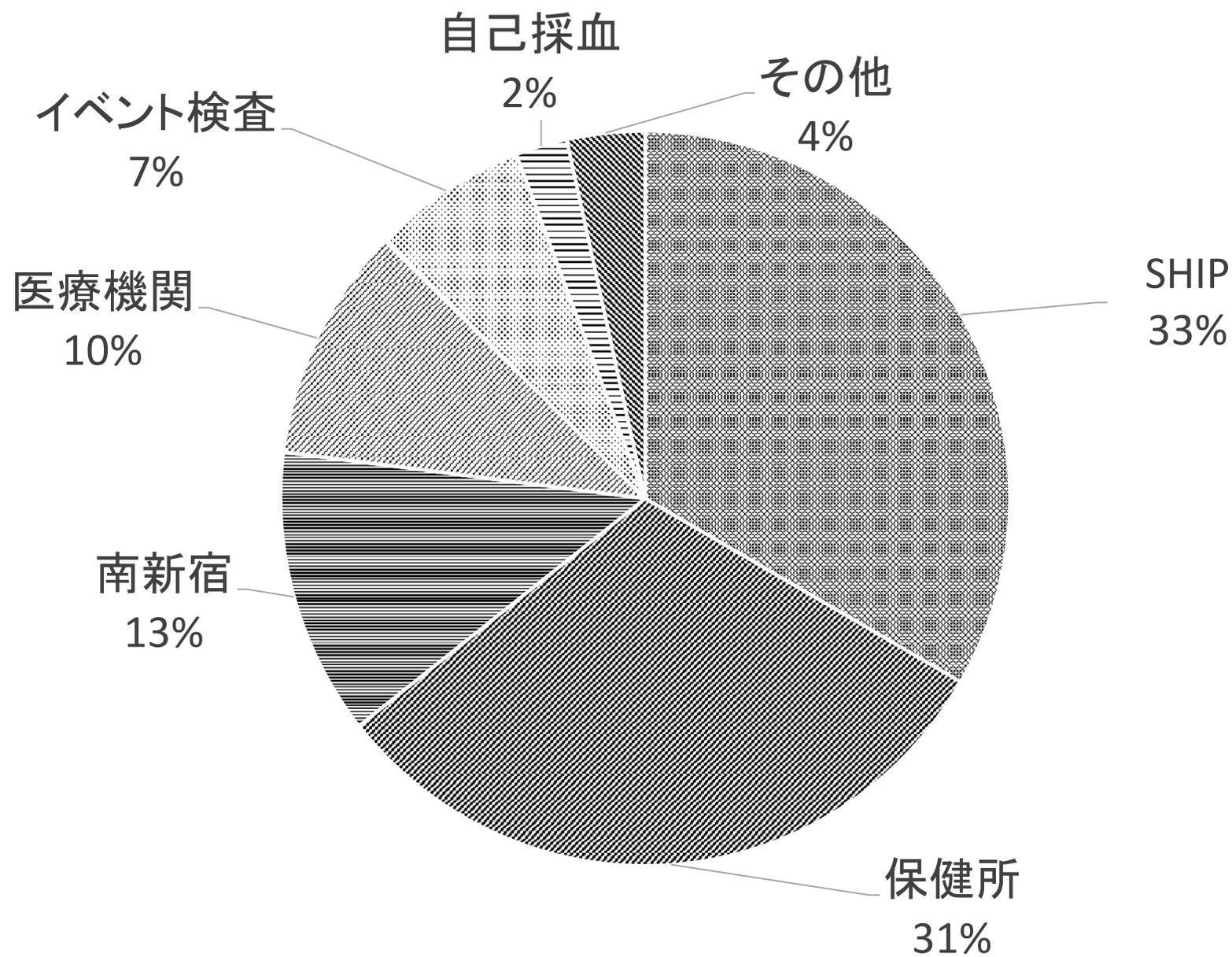


図5 年齢別構成

(人数)

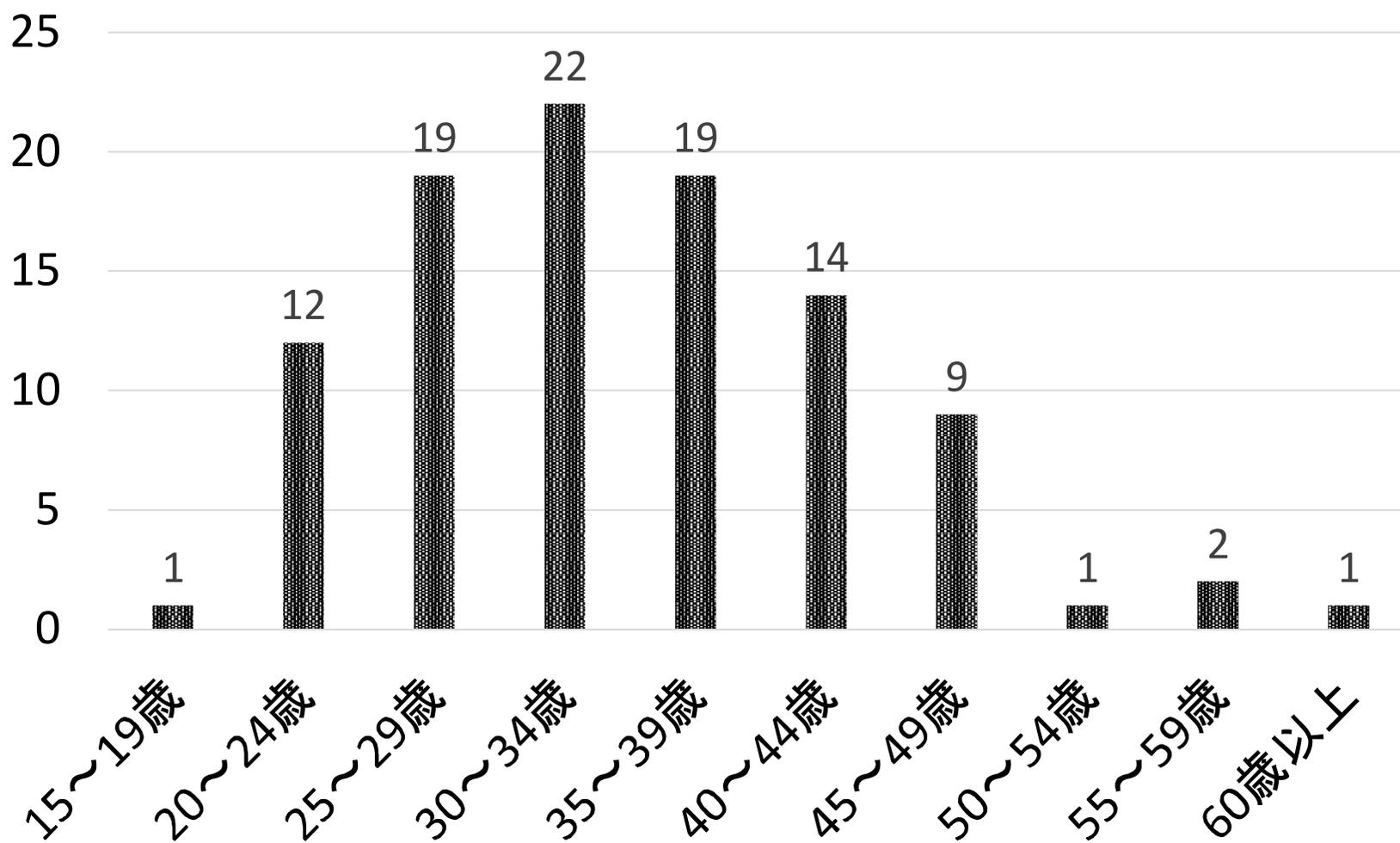


図6 居住地構成

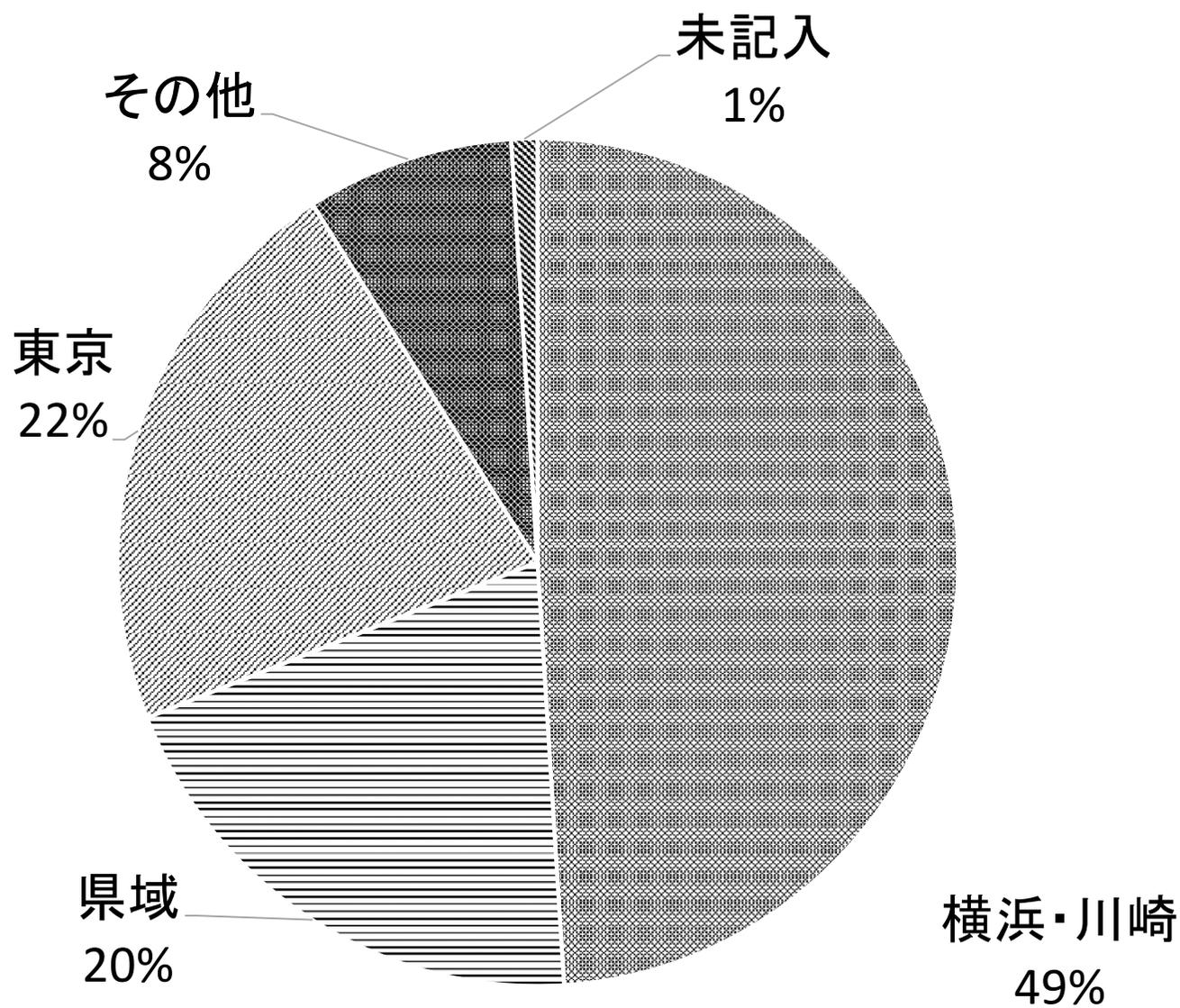


図7 MSM割合と受検動機

(1) MSM割合

	人数	(%)
MSM	99	99%
非MSM	1	1%
計	100	100%

(2) 受検動機

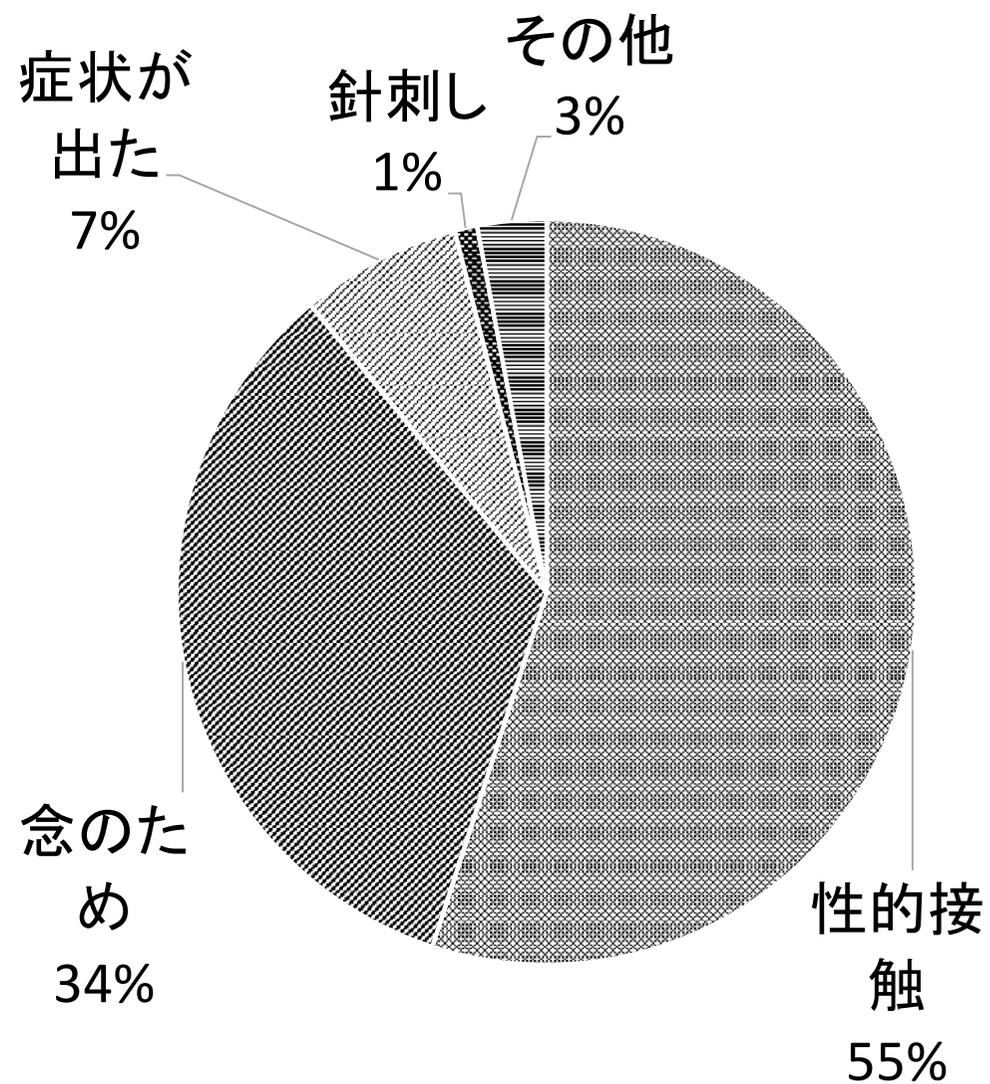


図8 気になる性的接触の相手との関係と コンドーム利用状況

(1) 気になる性的接触の相手との関係

いつもの相手	初めての相手	風俗業	未記入	合計
24 (24%)	59 (59%)	6 (6%)	11 (11%)	100(100%)

(2) 気になる性的接触のコンドーム利用状況

	しなかった	使った	使わなかった	未記入	合計
オーラル	5 (5%)	5 (5%)	80 (80%)	10 (10%)	100(100%)
アナル(ウケ)	51 (51%)	20 (20%)	15 (15%)	14 (14%)	100(100%)
アナル(タチ)	35 (35%)	32 (32%)	20 (20%)	13 (13%)	100(100%)

図9 当検査を選んだ理由（複数回答）

当検査場を選んだ理由

（回答者数 96人）

選んだ理由	人数	(%)
直ぐに結果が分かるから	83	86.5%
梅毒・B型肝炎も受けられるから	73	76.0%
ゲイ専用なので	40	41.7%
場所が近いから	38	39.6%
曜日と時間帯が受けやすい	31	32.3%
前に受けたから	17	17.7%
WEB予約ができるから	0	0.0%
他の検査場が分からない	0	0.0%

図10 満足度調査

(1) 役に立つ知識を得られましたか？ (回答者数 96人)

項目	人数	(%)
得られた	87	90.6%
得られなかった	3	3.1%
(空白)	6	6.3%

(2) 知人・友達にこのSTD検査をすすめたいと思いますか？

項目	人数	(%)
すすめる	46	47.9%
話してみたい	31	32.3%
わからない	10	10.4%
話す気はない	5	5.2%
すでに受けている	2	2.1%
(空白)	2	2.1%

図11 保健所と連携した検査の実施

(1) 予約数と受験者数

	実施主体	会場	定員（人）	予約人（人）	受験者（人）
11月21日	当研究班	ユニコムプラザ	15	15	12
12月4日	相模原市保健所	同上	25	25	17
	計		40	40	29

(2) 年齢構成

	～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60以上	計
11月21日		3	2	1	1	2	2			1	12
12月4日	1	2	5	2	1	5				1	17
計	1	5	7	3	2	7	2			2	29

(3) 居住地構成

	神奈川県	東京都	その他	計
11月21日	7	5	0	12
12月4日	8	7	2	17
計	15	12	2	29